

ゆけついんふおめ～しょん

発行/編集 広島大学病院輸血部
内容に関するお問い合わせはメールで：naoya64@hiroshima-u.ac.jp

広島大学病院の職員のみなさま、こんにちは。輸血部の藤井です。輸血部からの院内広報誌として、長らく「輸血部ニュース」を発行していましたが、この度内容も、よりわかりやすく親しみやすいものを目指して、「ゆけついんふおめ～しょん」として再出発することにしました。どうぞよろしくお願いたします。



「輸血部ニュースって今、電子カルテ端末のトピックスに掲載されているじゃん?!」と思われる方も多いかも知れません。以前から院内通知文として、検査部は「検査部ニュース」、薬剤部は「薬剤部ニュース」が院内ニュースに掲載されていますので、それにならう形で、輸血部からの院内通知文も「輸血部ニュース」と名称変更しました。そのため、院内通知ではなく、もっと輸血部を身近に感じていただくために、様々な輸血に関する情報をお届けしようと考え、名称もよりソフトに「ゆけついんふおめ～しょん」に変更しました。

旧輸血部ニュースから3年振りの発行になります。お忙しい診療・業務のつかの間に、目を通していただければありがたいです。

残念！今年度から輸血適正使用加算が取れなくなりました！

輸血に関する保険診療上の施設加算に、輸血管理料と輸血適正使用加算があります。輸血管理料Ⅰ（本院は本項目新設年より取得）の条件は表1のとおりで、輸血を受けた患者（アルブミン使用も含む）1人につき月1回220点取得できます。

表1：輸血管理料Ⅰの条件(全てを満たすこと)

1. 輸血管理部門に専任常勤医師を配置
2. 輸血管理部門に専従常勤検査技師を配置
3. 輸血管理部門でアルブミンを含む輸血用血液の一元管理
4. 24時間の輸血関連検査ができる体制
5. 年6回以上の輸血療法委員会の開催
6. 輸血前検体保存と輸血副作用の管理体制
7. 「輸血療法に関する指針」「血液製剤の使用指針」を遵守した輸血実施

輸血適正使用加算Ⅰの条件は表2の通りで、本院は長らくアルブミン/赤血球（RBC）使用比が2を越えており取得できませんでしたが、2024年度ようやく2.0未満となり念願の適正使用加算Ⅰ（管理料+1件あたり120点）を取得しました。しかし、それは1年限りということになってしまいました。2024年は、予想外に血漿交換件数が多く、新鮮凍結血漿（FFP）/RBC比が0.54を越えてしまい条件を満たさなくなりましたのが、その理由です。

血漿交換は、必要な患者さんがいれば積極的に行ってください。しかし血漿（FFP）ではなく、アルブミンで代用できる場合（いわゆる、プラスマフェレーシス）は、そちらへ変更をお願いしません。現在、多くの症例で、血漿中の抗体除去のためにプラスマフェレーシスではなく、血漿交換（プラスマエクスチェンジ）が行われているようです。「そうは言っても、全てアルブミンでやるとPTが延長して出血傾向が心配」という声もあるかも知れません。それなら、①全てアルブミンでなくても半量をアルブミンにする、②初回はアルブミンで行い追加の場合をFFPにする、のはいかがでしょうか？

表2：輸血適正使用加算Ⅰの条件(全てを満たすこと)

1. アルブミン/RBC(自己血, 全血を含む)使用比が2.0未満。但し、アルブミン使用量は、血漿交換療法での使用量を引いた量で計算
2. FFP/RBC(自己血, 全血を含む)使用比が0.54未満。但し、FFPの血漿交換での使用量は、1/2として計算

また血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）では、カプラズマブを早期に使用すれば、血漿交換の回数を減らすこともできます。ぜひ、来年度は適正使用加算を再取得しましょう！

本院の輸血療法マニュアルをご存じですか？

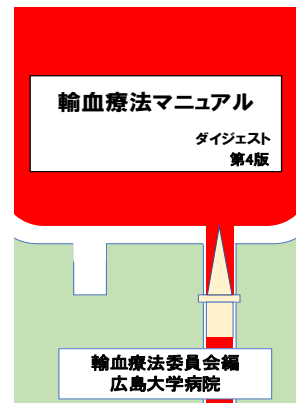
輸血は、厚労省の指針である「輸血療法に関する指針」「血液製剤の使用指針」に基づいて、安全で適正に施行することが、求められています。そのため、本院にも「輸血療法マニュアル」があります。どこにあるかご存じですか？

最新の「輸血療法マニュアル」は、電子カルテ端末のナビゲーションマップ内「共通」の「院内情報 web」から入っていただき、左側タブの「各種マニュアル」⇒■輸血⇒輸血療法マニュアルより閲覧することができます。本院の輸血実施手順も掲載していますので、ぜひお読み下さい。

いちいち、画面を開いて見るのは面倒！という方。ご安心ください。白衣のポケットにも入る「輸

血療法マニュアルダイジェスト版」もあります。ご入り用の場合には、輸血部へご連絡下さい（内線 5580）。

また新入職者のための e ラーニングも作成しています。これは、【全学情報基盤システムいろは】にログイン⇒霞地区⇒輸血に関する研修会でご視聴いただくことができます。ぜひ、ご覧下さい。



<連載コラム>

輸血部は血液製剤を右から左に流す部門じゃない！

～輸血部ヤマサキのアルブミン鳥瞰図①～

さあ突然、勝手に連載を始めました！タイトルは『輸血部は血液製剤を右から左に流す部門じゃない！』。まずは読んでもらわなければ何も始まらない！というコンセプトを基に、くだけた文章で輸血用血液製剤にまつわるお話をしていく内容となっております。ちなみに、タイトル下段の～～で括っているところは、その回でどのような内容をお伝えするものかを示したものにしています。

アルブミンについてどこまでご存知ですか？アルブミンは、約 600 個のアミノ酸からできた分子量約 66,000 の比較的小きなタンパク質で……おやおや？まるで蜘蛛の子を散らすかのように読者が離れているようなので、この展開での話は止めましょう。とりあえずアルブミンは血漿タンパクのうち約 60%を占めるタンパク質です。そう、100%じゃないんです！意外にもギリ単独過半数レベル。あと、教科書ではアルブミンの役目の 1 つとして、血液の浸透圧の維持があるという風に習いませんでしたか？ヤマサキもそう習いました。しかし、浅く学んだだけでアルブミンを知った気になっていた方々には衝撃的な事実があります。なんと、血管外にもアルブミンは存在しています！…えっ？！そんなこと知ってるって？ヤマサキは知りませんでした…。では、血管内と

血管外のアルブミン分布率をご存知ですか？なんと、血管内 40%、血管外 60%なんだそうです。血液の浸透圧維持に重要な役割があるとか言いつつながら、血管外の方が多いんなら「浸透圧綱引きに負けとるやないかーい！」と叫びたくありませんでしたか？…このようにアルブミンは、不文律かのごとく（詳しく知らないだけ？）、血管内と血管外の相互をアルブミンは行ったり来たりして絶妙なバランスを保ち、健康な状態だと血漿アルブミン濃度は 4 g/dl 程度に保たれています。

体内のアルブミン貯蔵量はどれくらいご存知ですか？体重 1 kg あたり 4～5g が体内に貯蔵されているそうです。なので、体重 60kg の成人では、240～300g ほどが体内に貯蔵されていることになります。これを先ほどお伝えしたアルブミンの血管内、血管外分布率を掛けると、健常者の血管内アルブミン総量は 100～120g、血管外アルブミン総量は 140～180g もの量になります。

(次号へつづく)

